

ID	
氏名	
年齢	
科名	病棟

Pola-R-CHP[同日]療法

3 週毎 6 コース予定

悪性リンパ腫

主治医

指導医

HBs抗原(), HBs抗体(), HBc抗体(), HCV抗体()

スケジュール

		day1	day2	day3	day4	day5
リツキシマブBS	375 mg/m ²	↓				
プレドニン(プレドニゾロン)	100 mg/body	↓	↓	↓	↓	↓
ポライビー(ポラツズマブ)	1.8 mg/kg	↓				
ドキソルビシン	50 mg/m ²	↓				
エンドキサン(シクロホスファミド)	750 mg/m ²	↓				

【注意】 *リツキシマブ施行時は体温・脈拍・血圧測定・SpO2測定をUP直前に行うこと

*ドキソルビシンの総投与量は500 mg/m²を超えないこと

*ポラツズマブ初回投与は90分かけて点滴静注し、忍容性が良好であれば2回目以降は30分まで短縮可

*ポラツズマブは投与量が75 mg以上の場合は生食100 mL、75 mg未満の場合は生食50 mLで希釈する

*ポラツズマブは0.2または0.22 μmインラインフィルターを通して投与すること

*7コース目以降はリツキシマブ単剤療法へ移行する

通常量より減量する際の理由

(レジメン)

【初回のみ】*初回投与は必ず入院で実施

day1 抗がん薬投与1時間半前にアプレピタントカプセル 125 mg 1C 内服

① イブプロフェン 100 mg _____錠 + デザレックス 5 mg _____錠 内服

☆30分後より

- ② 生食 500 mLにて血管確保 維持(20 mL/時間)
- ③ プレドニン 100 mg + 生食 50 mL 点滴静注5分(600 mL/時間)
- ④ リツキシマブBS + 生食 適量(10倍希釈)

*注:総量600 mLを超える時はテルモ生食1 Lを使用

◎輸液ポンプにて50 mL/時間で点滴静注

- ⑤ 50 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ

◎輸液ポンプにて100 mL/時間で点滴静注

- ⑥ 100 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ

◎輸液ポンプにて150 mL/時間で点滴静注

- ⑦ 150 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ

◎輸液ポンプにて200 mL/時間で点滴静注

- ⑧ 200 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ

◎輸液ポンプにて250 mL/時間で点滴静注

- ⑨ 250 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ

◎輸液ポンプにて300 mL/時間で点滴静注

- ⑩ 300 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ

◎輸液ポンプにて350 mL/時間で点滴静注

- ⑪ 350 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ

◎輸液ポンプにて400 mL/時間で点滴静注

☆初回投与時は90分間、以降は忍容性良好であれば30分間経過観察を行う

- ⑫ パロノセトロン 0.75 mg + 生食 20 mL 側管静注

- ⑬ ポライビー + 注射用水 適量 + 生食 100 mL

※75 mg未満の場合は生食 50 mLで希釈 点滴静注90～30分

(140 mg/Vは7.2 mL、30 mg/Vは1.8 mLの注射用水で溶解)

☆初回投与時は90分間、以降は忍容性良好であれば30分間経過観察を行う

- ⑭ ドキソルビン + 生食 50 mL 点滴静注5分(600 mL/時間)

⑮ エンドキサン + 生食 100 mL 点滴静注60分

◎血管確保していた生食を、エンドキサンと同時滴下90分で点滴静注

day 2 - 3 アプレピタントカプセル 80 mg 1C 1×朝食後 内服

day 2 - 5 プレドニゾロン錠 内服

【2回目以降】第1サイクルにおいて発現した有害事象がGrade2以下であった場合

day1 抗がん薬投与1時間半前にアプレピタントカプセル 125 mg 1C 内服

① イブプロフェン 100 mg _____錠 + デザレックス 5 mg _____錠 内服

☆30分後より

② 生食 500 mLにて血管確保 維持(20 mL/時間)

③ プレドニン 100 mg + 生食 50 mL 点滴静注5分(600 mL/時間)

④ リツキシマブBS + 生食 適量(10倍希釈)

*注:総量600 mLを超える時はテルモ生食1 Lを使用

◎輸液ポンプにて100 mL/時間で点滴静注

⑤ 100 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ

◎輸液ポンプにて200 mL/時間で点滴静注

⑥ 200 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ

◎輸液ポンプにて300 mL/時間で点滴静注

⑦ 300 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ

◎輸液ポンプにて400 mL/時間で点滴静注

☆30分間経過観察を行う

⑧ パロノセトロン 0.75 mg + 生食 20 mL 側管静注

⑨ ポライビー + 注射用水 適量 + 生食 100 mL

※75 mg未満の場合は生食 50 mLで希釈 点滴静注90～30分

Pola-R-CHP[同日]療法

(140 mg/Vは7.2 mL、30 mg/Vは1.8 mLの注射用水で溶解)

☆30分間経過観察を行う

- | | | | | |
|---|----------|---|-----------|-------------------|
| ⑩ | ドキシソルビシン | + | 生食 50 mL | 点滴静注5分(600 mL/時間) |
| ⑪ | エンドキサソ | + | 生食 100 mL | 点滴静注60分 |

◎血管確保していた生食を、エンドキサンと同時滴下90分で点滴静注

day 2 - 3 アプレピタントカプセル 80 mg 1C 1×朝食後 内服

day 2 - 5 プレドニゾロン錠 内服

	1 コース	2 コース	3 コース	4 コース	5 コース	6 コース
	/	/	/	/	/	/
プレドニン 開始時刻	↓	↓	↓	↓	↓	↓
リツキシマブBS 開始時刻	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ポライビー 開始時刻	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ドキシソルビシン 開始時刻	↓	↓	↓	↓	↓	↓
エンドキサン 開始時刻	↓	↓	↓	↓	↓	↓
確認						